

「平成29年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立富里北中学校】

平成29年4月18日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

1 生徒が受けた調査について

「国語A・B」、「数学A・B」、「生徒に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

（1）教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語A、数学A	〔主として「活用」〕 国語B、数学B
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

（2）生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

＊調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/17chousa/17chousa.htm>

2 本校生徒の調査結果

全国公立中学校の平均正答率（以下全国平均）と本校生徒の状況

（1）教科の調査結果から

国語A（知識）	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	B
国語B（活用）	基礎的な知識・技能を活用する問題	A
数学A（知識）	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	A
数学B（活用）	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	B

☆ 全国平均正答率との比較について

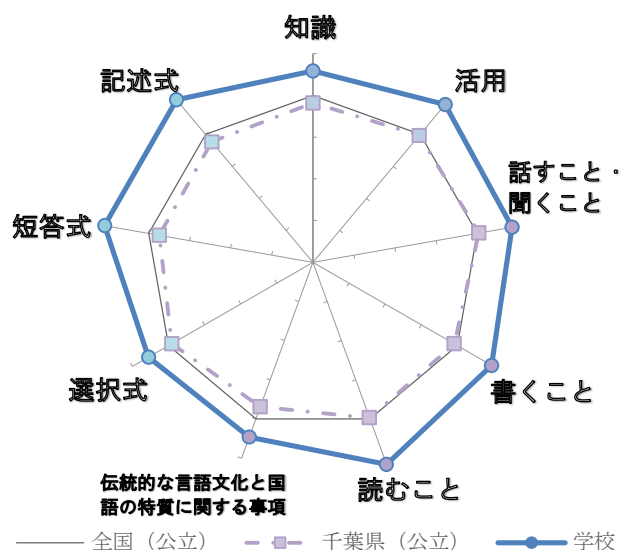
A：＋5.0％より上回っている場合「良好」

B：＋5.0％～－5.0の場合「ほぼ同じ」

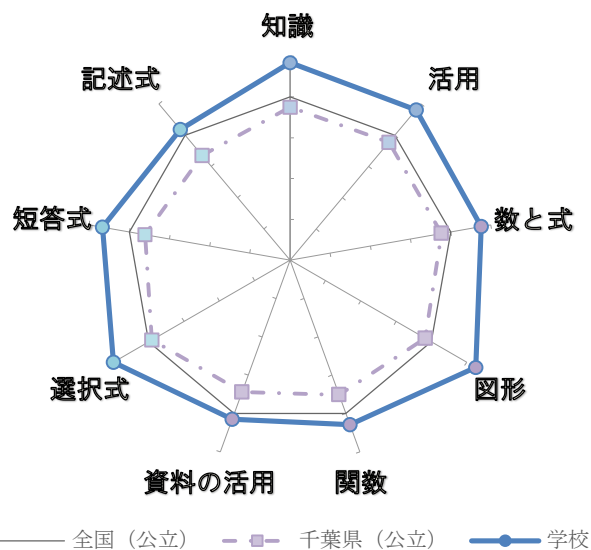
C：－5.0％より下回っている場合「要改善」

(2) レーダーチャート

<国語>



<数学>



3 結果分析

(1) 学習面について

全体的には「本校生徒の調査結果」にあるように、国語の「主として活用」においては、全国平均を大きく上回る成績を収めています。また、数学の「主として知識」においても、全国平均を大きく上回る成績でした。国語の「主として知識」と数学の「主として活用」においても全国平均を上回る成績を収めています。

「レーダーチャート」によると、国語・数学ともに全ての項目で全国平均を上回る結果になっており、十分な力が平均的に身につけていると考えられます。国語では、特に「読むこと」の領域や「短答式」の問題形式において良好な成績を収めています。一方、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域と「選択式」の問題形式に、今後、力を伸ばせる余地があります。数学では、特に「図形」の領域や「選択式」の問題形式において良好な成績を収めています。一方、「関数」や「資料の活用」の領域における力が、他の領域に比べるとやや弱いと考えられます。

本校では学力向上を重点目標の1つとし、それを実現するために学習の基盤となる言語活動、「聞く・話す」力を向上させるための取組を行っています。具体的には、聞く際に「メモを取る」「質問をする」「相手の意見に対して批評・批判できる」こと、話す際に「筋道を立てて話をする」「根拠をもって自分の意見を発表する」ことを意識して、話し合いや学び合い活動を少しずつ授業に取り入れています。今後さらに多くの場面で設定することで、応用的な問題や記述式の問題への対応力も更に向上させていきたいと考えています。

(2) 生徒質問紙調査から

家庭生活において、「朝食を毎日食べている」生徒の割合や「毎日同じくらいの時刻に寝ている・起きている」生徒の割合が全国平均を上回るなど、規則正しい生活習慣ができています。

家庭学習においては「普段の学校の授業以外の学習時間」が多い生徒の割合は、全国平均をやや上回り、「土曜日や日曜日の学習時間」が多い生徒の割合は全国平均を大きく上回っています。特に「授業の復習」を家庭で行っている生徒が大幅に全国平均を上回り、学習習慣が身についている生徒が多いことがうかがえます。一方、「家で自分で計画を立てて勉強している」生徒の割合が全国平均をわずかに下回っており、この点を課題に取り組むことで更に向上が図れると考えられます。

本校の特色として「学校の規則を守っている」や「友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる」と回答した生徒は、どの調査においても正答率が高くなる傾向にありました。また、「自分には、良いところがある」「将来の夢や目標を持っている」と回答する生徒が多く、物事を前向きに受け止めて努力する姿勢が学力にも良い影響をもたらしていると考えられます。

4 まとめ

- (1) 基本的な生活習慣については、ほとんどの項目で良好な結果でした。規則正しい時間で生活ができていることが、様々な面での支えとなっています。一方で、1日あたりのゲームをする時間や携帯電話やスマートフォンでインターネットやメールに費やす時間については3時間以上の生徒の割合は少ないのですが、1時間以上の生徒の割合は全国平均よりも高いという結果が出ています。
- (2) 家庭学習については、「学校の授業以外の学習時間」が全国平均を上回り、「家で予習や復習をする」生徒の割合も大幅に上回っています。本校では、家庭学習について入学時より「家庭学習ノート」の活用を薦め、毎日継続して取り組むよう生徒への呼びかけを重ねてきました。それに応えて生徒が努力をした結果、普段からの学習習慣が身についてきていると考えられます。更に向上を目指すため、「自分で計画を立てて勉強する」ための手立てを、定期テストの学習計画作成などの機会を捉えて進めてまいります。日々の積み重ねが学力の向上に結びつくと考えられますので、ご家庭でのご協力もお願いいたします。
- (3) 学校生活全般に対し積極的であり、楽しく学校生活を送っている生徒が多くなっています。特に「自分によいところがある」と答えた生徒や「自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かし、折り合いをつけて話し合っている」と答えた生徒が多く、自他共に大切にして、向上しようとする姿勢が感じ取れます。今後、さらに学校生活の様々な場面で視野を広げるような活動を取り入れた指導、支援をして生徒の長所を伸ばしていきたいと考えています。
- (4) 「原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くこと」を難しいと考える生徒が多い傾向にあるので、自分の考えをまとめて、表現する場面のある授業を多く取り入れていきたいと考えております。